

「コウノトリ野生復帰」の取組を知ってもらおう！ ENEOSわくわく生き物学校 2009-2018



コウノトリ野生復帰の取組に参加してもらうためには、知ってもらうことが大切です。まだまだコウノトリ自体を知る人が少なかった10年前、市外の子どもや保護者にコウノトリ野生復帰の取組を知ってもらい、応援団になってもらおうと「ENEOSわくわく生き物学校」が始まりました。

2009(平成21)年度から2018(平成30)年度にかけて、主に関西圏の子どもと保護者のペアを対象に、豊岡で行われているコウノトリ野生復帰の取組を理解してもらうとともに、未来を担う子どもたちに、湿地や生物多様性のしくみ、生きものなどに対する正しい知識と体験の場を提供することを目的に開催しました。

10年間で、延べ126名の子どもたちが「ENEOSわくわく生き物学校」を卒業しています。

戸島湿地編

「豊岡市立ハチゴロウの戸島湿地」を舞台に、コウノトリ野生復帰の取組を学び、湿地内の外来種駆除活動などを実施しました。

主催：兵庫県豊岡市

協賛：新日本石油株式会社

協力：コウノトリ湿地ネット

後援：環境省近畿地方環境事務所



第1回

日程： 2010年3月27日(土)

場所： コウノトリの郷公園、ハチゴロウの戸島湿地

初めて開催した「わくわく生き物学校」では、湿地の外来種駆除を行いました。大阪や神戸から参加した親子22名は、恐る恐る初めて湿地に入りました。生きものが採れた時には歓声が上がっていました。



第2回

日程:	【事前学習会】 2010年7月10日(土) 【わくわく生き物学校】 2010年7月24日(土)
場所:	【事前学習会】 芦屋市総合公園 会議室 【わくわく生き物学校】 コウノトリの郷公園、ハチゴロウの戸島湿地
内容:	2回目のわくわく生き物学校は、事前学習会を芦屋で開催しました。魚などの住処となる竹筒を親子で作製し、自分たちでその効果を実際に確かめます。中からは、テナガエビ、モクズガニ、そしてウナギが！ 様々な生きものが住みかにしていることが確認できました。



田結湿地編

2011(平成23)年からは、ラムサール条約湿地に登録された「田結湿地」に活動の舞台を変えて、自然再生活動や有害鳥獣対策などの活動を実施しました。このときから、「ENEOSわくわく生き物学校」は1泊2日に変わりました。



主 催: 兵庫県豊岡市

協 賛: JXTGエネルギー株式会社

協 力: 兵庫県立人と自然の博物館、兵庫県立コウノトリの郷公園、コウノトリ湿地ネット、
豊岡市田結(たい)区

後 援: 環境省近畿地方環境事務所

第3回

日程:	2011年10月29日(土)～30日(日)
場所:	コウノトリの郷公園、田結湿地
内容:	3回目からは、田結湿地を舞台として行いました。生きものを増やすために何をすればよいかを湿地を調査しながら考え、計画します。翌日、実際に自分たちで考えた池づくりを実践しました。



第4回

日程:	2012年9月22日(土)～23日(日)
場所:	コウノトリの郷公園、田結湿地
内容:	「湿地の乾燥化を防ぐにはどうすれば良いのか」を考えながら、湿地づくりを実践しました。



第5回

日程:	2013年6月29日(土)～30日(日)
場所:	コウノトリの郷公園、田結湿地
内容:	この年のテーマはモリアオガエルの産卵場となる山際の木の下に池を掘り、と第4回に活動をした場所の補修作業を行いました。ナイトツアーでは、夜の田結湿地に姿を現す様々な生きものを観察しました。。



第6回

日程:	2014年6月21日(土)～22日(日)
場所:	コウノトリの郷公園、田結湿地
内容:	シカの食害に悩む田結湿地。そこで、シカの食害から植物を守るため、シカ防護柵をつくりました。作業後、柵のなかでは、本来の植生が少しずつ戻っていき、チョウなどの昆虫の棲みかが創出されました。



第7回

日程:	2015年6月20日(土)～21日(日)
場所:	コウノトリの郷公園、田結湿地
内容:	第6回に引き続き、湿地に生える植物の一部をシカから守ることで、生き物の住みかを増やす取り組みにチャレンジしました。第6回に作成した柵よりも簡単に設置できるタイプの柵をつくり、効果を検証しました。



第8回

日程:	2016年6月11日(土)～12日(日)
場所:	コウノトリの郷公園、田結湿地
内容:	田結湿地内では、水の通り道と陸地がハッキリと別れてしまっていたので、湿地全体に水をいきわたらせることが必要でした。池を掘ったり、水路をつくったり。作業後には、湿地全体に水がいきわたり始めました。



第9回

日程:	2017年6月10日(土)～11日(日)
場所:	コウノトリの郷公園、田結湿地
内容:	この年の田結湿地は降水量が少なく、湿地の一部が乾燥し始めていました。どうすれば生き物のすみかが維持・拡大できるか。多様な生き物が暮らせる湿地づくりについて考え、保全作業をおこないました。



第10回

日程:	2018年6月23日(日)～24日(日)
場所:	コウノトリの郷公園、田結湿地
内容:	川へ水が漏れでていた湿地上部の貯留池。どうすれば湿地に水を戻せるか、そしてたくさんの生き物のすみかを増やすことができるか。参加者全員で相談しながら湿地づくりについて考え、保全作業を行いました。



「ENEOSわくわく生き物学校」参加者の声をご紹介します！

- ・参加者が生きものや自然を学習するのではなく、生きものや自然から教えてもらった。(2009保護者)
- ・豊岡のファンになった。日本にもまだまだ素敵なおところがあると再認識した。(2010保護者)
- ・昆虫の夜の様子を見ることが出来てよかった。(2011子ども)
- ・子どもと共に自然に触れ合う事ができ、絆も深まった。(2011保護者)
- ・子どもでも自然を守ることができると思わなかった。(2012子ども)
- ・帰宅後、子どもが少し自分自身で判断し、行動するようになった。(2012保護者)
- ・これからも自然をきれいにしたい。(2013子ども)
- ・自然を単に残しておくことと、人間と共存することの違いが良く分かった。(2013保護者)
- ・ほとんど全てのことが勉強になった。(2014子ども)
- ・盛りだくさんでもう少し時間があれば…(2014保護者)
- ・豊岡へ行く度に豊岡が好きになります。(2014保護者)
- ・これからも継続してこのような活動を支援してほしい。(2014保護者)
- ・友達ができた(2015子ども)
- ・中学生も参加できるようにしてほしい。(2015子ども)
- ・単なる収穫体験などではなく、意味のある作業と一緒にできた。(2015保護者)
- ・もっとお泊りの期間を長くしてほしい。(2016子ども)
- ・娘なりの言葉で自然保護や街の様子を話すようになった。(2016保護者)
- ・大きな企業が生物多様性保全活動や次世代育成活動に取り組む事は大変有意義。(2016保護者)
- ・去年よりもっと楽しくなっていたのでとっても楽しかった。(2017子ども)
- ・子どもの生きものを観察する姿が今までと違い、変化に気付くようになった。(2017保護者)